

# 大阪城

2024  
2/22 (木)  
14428  
号

全港湾  
西成分会

2247  
6647-  
4947

暖気が流れニヤ。この月、大増は20度以上になり、  
過去最高とかいっている。群馬の関所は25度度。  
東京では23度度になったと云う。山口県や九州、  
奄美では「春一番」が吹いたという。しかし関西  
では、寒気が戻ってきていて、体調には気をつけて  
いきなさいとの事です。

新年が明け、きょう2ヶ月が過ぎようとしている  
が、内向きのエネルギーが、ブラックホールのように  
動き、外に打って出る。日本の型というふうなも  
のが、なかなか生れてきていないようだった。

GDP (国内総生産) がドイツに抜かれ、米・中・独の  
次の4位になったという。1868年、明治元年からの  
軍国・侵略主義、アジア諸国の反抗、アメリカなどの  
科挙技術に1945年、昭和20年敗北した結果、  
過去を反省と、核総持し、戦後民主主義、自由の  
流れで、経済成長をとげた。しかし、バブルの崩壊、  
1990年以降で、戦後型の成長は終わった。世界  
米ソの冷戦は終り、グローバル化、アメリカ極支配に  
なったが、それから30年余、日本は、明治型の原型から  
抜け出し、明治を超え、新しい型と内容を生み出し  
ていない。世界も、アメリカ極支配は終わっている。目には  
見えない原子レベルの進化と革命は日々生れてきている。

# 国交省／設計労務単価5.9%引き上げ、過去10年で最大の伸び・3月1日から適用

日刊建設工業新聞 2024-02-19

国土交通省は16日、公共事業の積算に用いる新しい公共工事設計労務単価と設計業務委託等技術者単価を発表した。労務単価は全国・全職種単価の単純平均で5.9%、技術者単価は全職種の単純平均で5.5%引き上げる。いずれも前年度を上回り過去10年で最大の伸び率。労務単価は都道府県別・職種別で1000以上ある単価のすべてがプラス改定となる。業界を挙げての賃上げや、価格転嫁の円滑化への働き掛けが実を結んだ格好だ。

## 主要12職種の公共工事設計労務単価

職種	全国平均値	前年度比
	(加重平均値で算出)	(単純平均値で算出)
特殊作業員	2万5598円	6.2%
普通作業員	2万1818円	5.5%
軽作業員	1万6929円	6.3%
とび工	2万8461円	6.2%
鉄筋工	2万8352円	6.6%
運転手 (特殊)	2万6856円	6.3%
運転手 (一般)	2万3454円	7.2%
型わく工	2万8891円	6.6%
大工	2万7721円	4.9%
左官	2万7414円	5.0%
交通誘導警備員A	1万6961円	6.4%
交通誘導警備員B	1万4909円	7.7%

公共工事の入札時に見積額を算定するために想定される労働者の賃金、国としても賃金の引き上げを促したいと思っっているようです。